

第2章 平成13年度山口大学構内の試掘調査

第1節 吉田構内の試掘調査

1 経済学部校舎改修（プレハブ校舎新営）に伴う試掘調査

(1) 調査の経過

吉田構内の経済学部校舎改修に付随して、プレハブ校舎新営が確定した¹⁾。調査区東側に隣接する経済学部商品資料館の敷地では、商品資料館新営に伴い平成6年度に試掘調査を行っている²⁾。このときの調査では、河川を検出しているが、時期の判別可能な土器は出土していない。そこで、隣接地の調査で検出していた河川の流路方向の確認と、時期確定のための遺物の発見を目的として、平成13年12月4・5日、10～28日に試掘調査を実施した。調査区は建設予定地の一部に、東西2m、南北20m、総面積40m²で設定した。

(2) 基本層序 (Fig. 6, PL. 3)

本調査区における基本層序は、第Ⅰ層：表土、第Ⅱ層：造成土、第Ⅲ層：水田耕土、第Ⅳ層：水田床土の順で、これより以下が河川埋土となる。河川埋土は、砂・小礫・シルトの互層堆積となっている。また、埋土の状況から複数の河川が切り合っていることがうかがえる。今回の調査では、調査区底面付近で検出したシルト層をある時期の河川床面と捉えそれ以下の発掘は行わず、部分的な調査にとどめた。河川堆積土上面からシルト層までの堆積土の厚さは約50～80cmである。

(3) 遺構 (Fig. 5・6, PL. 2)

調査の結果、河川を検出したものの河川幅が広く、調査区の長さを越えていたために河川幅を確認することはできなかった。河川全体について東西方向の断面図は作成されていないため判断が難しいが、調査者は堆積土の状況から流路方向を概ね東—西の方向と推定している。河川埋土からは縄文土器、土師器、須恵器が出土した。このうち、河川上面から出土した須恵器甕胴部片 (Fig. 7-5) から、河川の最終堆積の



Fig.4 調査区位置図

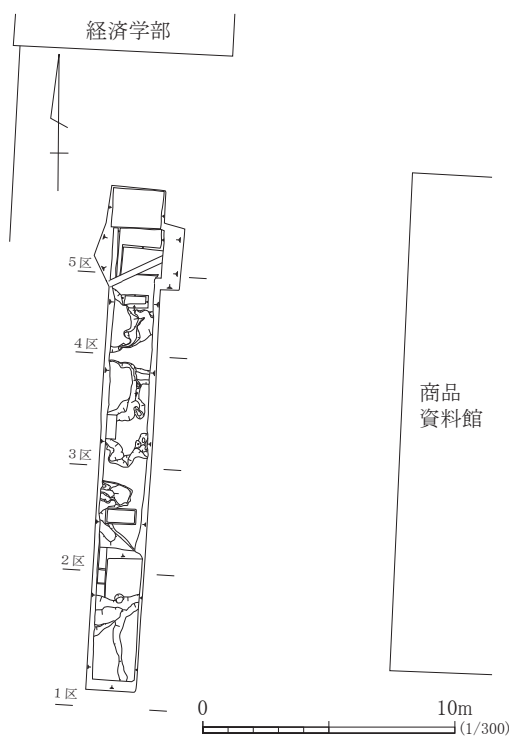


Fig.5 調査区設定位置図

時期は古墳時代以降と比定することができる。土器は砂層とシルト層の境目でやや多く出土する傾向にあり、砂層からも出土したが、シルト層からは出土していない。

(4) 遺物 (Fig. 7, PL. 4)

出土遺物には土器のほか、植物遺体がある。土器はいずれも小片であり、図示できるものは少ない。1は縄文土器深鉢胴部である。胴部に隆帯を2条施すが、摩滅が激しい。前～中期か。2～4は縄文時代晩期中葉の土器である。2は深鉢の頸～胴部で外面に二枚貝条痕を施す。3は深鉢胴部で内面に二枚外条痕を施す。4は深鉢胴部で内外面に二枚貝条痕を施す。5は須恵器甕胴部である。外面

に格子目タタキを施し、内面には当て具痕が残る。

(5) 小結

今回の調査区底面付近で検出したシルト層は、この河川のある時期の床面と考えられ、シルト層の下部には、砂・礫・シルト等の堆積が続いている。この状況は、隣接地の河川及び平成4年度農学部連合獣医学科棟新営に伴う発掘調査で確認された河川埋土の状況³⁾と同様である。調査区周辺では、前述した商品資料館敷地のほか、経済学部校舎敷地で今回検出した河川と同一もしくは一連とみられる河川検出されている。また、調査区の北東約30mに位置する東亜経済研究所敷地⁵⁾でも河川が検出されているが、遺物は出土していない。以上を踏まえると、今回調査区の遺物は調査区よりも標高が高い南側、ハンドボール場付近からの流れ込みであることが推測できる。

新営建物の掘削深度は最大で約70cmであるが、河川堆積土上面までの深さは現地表下約1mであるため、建物建設を予定どおり行っても、地中の埋蔵文化財の保護に支障をきたす恐れはない。このため、平成14年1月16日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会で審議した結果、発掘調査は今回の試掘調査にとどめることとなった。

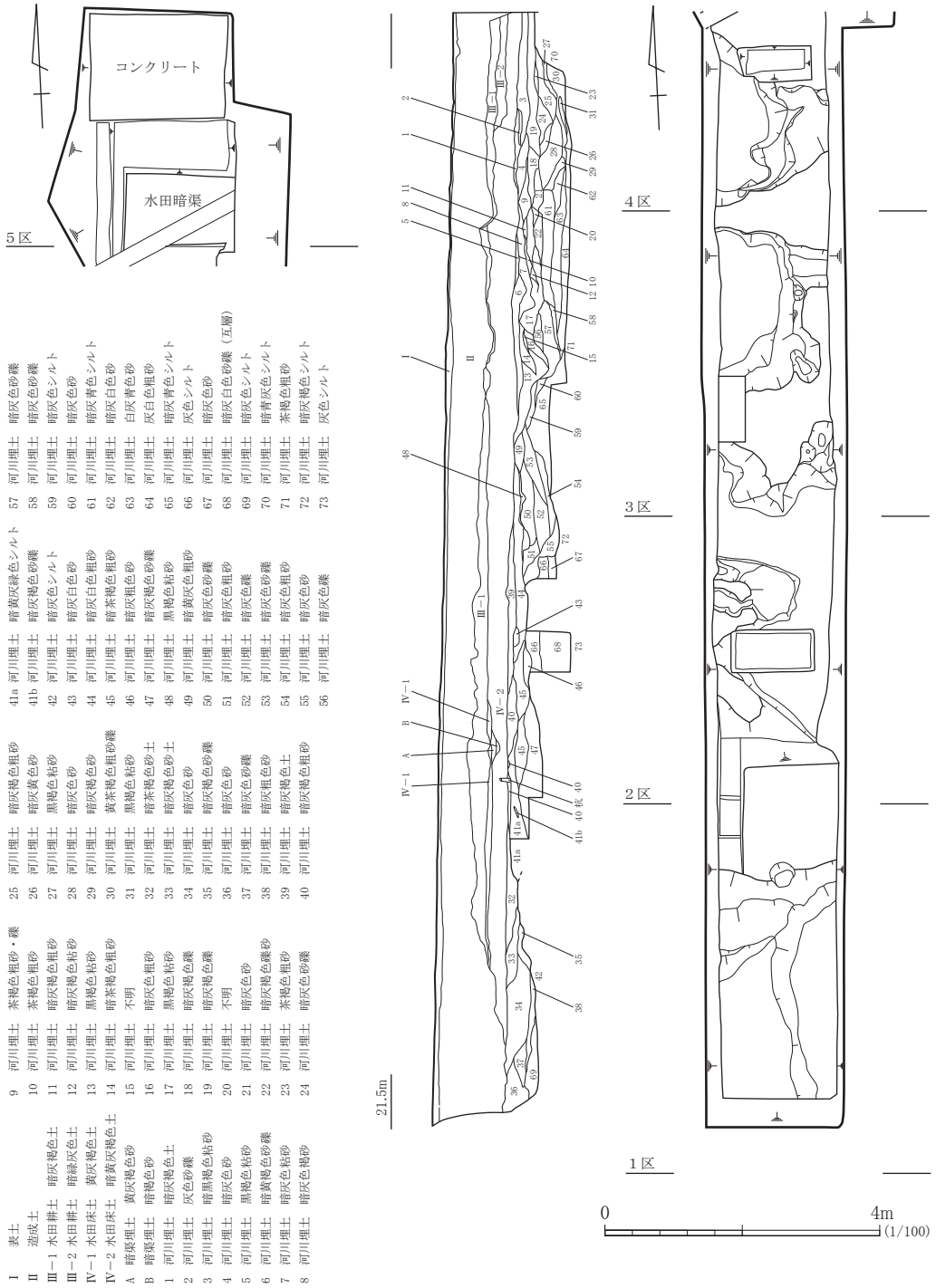


Fig.6 調査区平面図・断面図

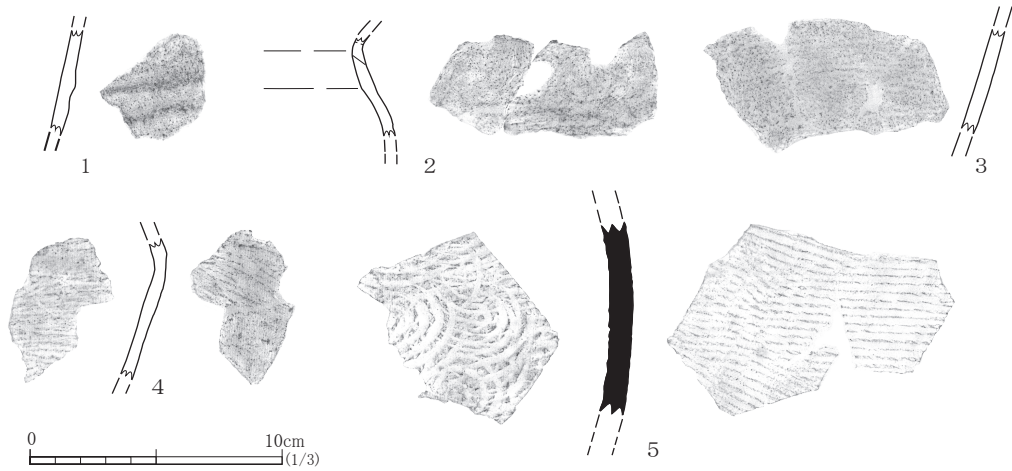


Fig.7 出土遺物実測図

[注]

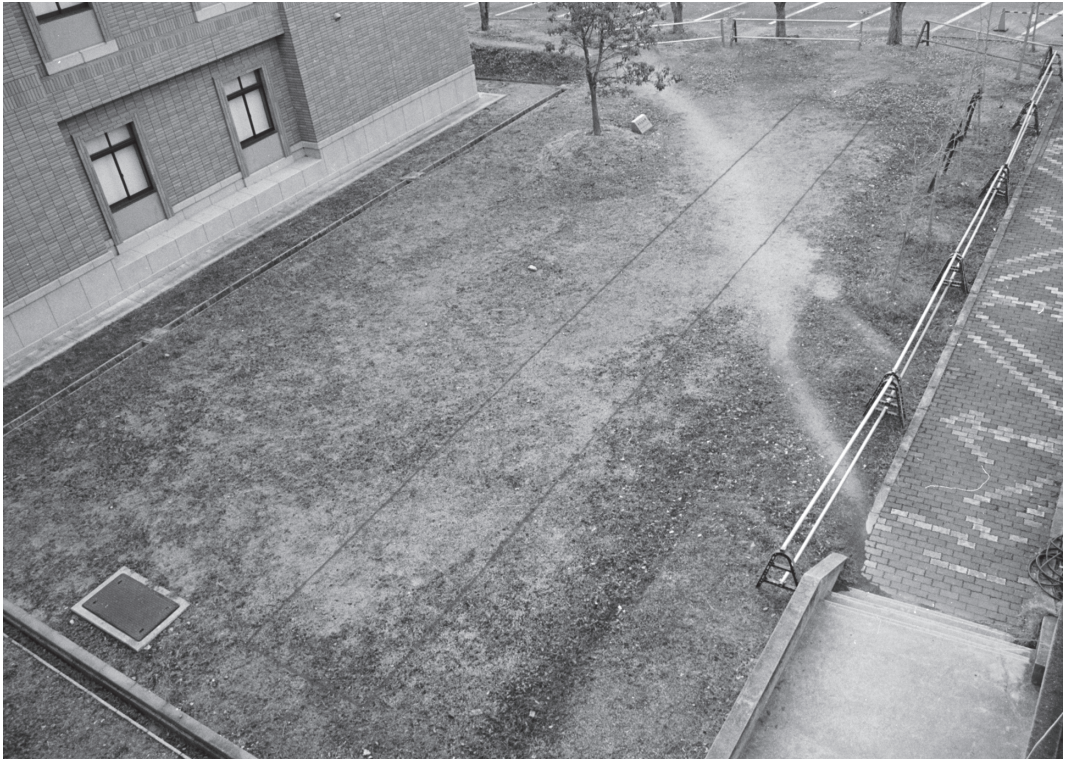
- 1) 本報告は村田裕一「経済学部プレハブ校舎新営に伴う試掘調査」(『平成14年1月16日埋蔵文化財資料館運営委員会資料』、2002年)を元に田畑が執筆した。
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「経済学部商品資料館新営に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報XIV』、2000年)
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内農学部連合獣医学科棟新営に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、1994年)
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内経済学部校舎新営に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、1992年)
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館「資料館(東亜経済研究所)新営工事に伴う予備発掘調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成18年度-』、2010年)

Tab.2 出土遺物観察表(土器)

遺物番号	出土遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調		胎土	備考
								①外面	②内面		
1	河川		縄文土器 深鉢	胴部				①② 暗灰黄色	1~3mmの砂粒を含む		
2	河川		縄文土器 深鉢	頸~胴部				①暗灰黄色 ②にぶい黄色	1~3mmの砂粒を含む	外面に二枚貝条痕	
3	河川	床面	縄文土器 深鉢	胴部				①暗灰黄色 ②黒褐色	1~4mmの砂粒を含む	内面に二枚貝条痕	
4	河川		縄文土器 深鉢	胴部				①灰黄色 ②黒色	1~3mmの砂粒を含む	内外面に二枚貝条痕	
5	河川	上面	須恵器 甕	胴部				①②青灰色	1mmの砂粒を含む		



扣田構内全景（南から）



(1) 調査前全景（北西から）



(2) 調査区全景（北から）



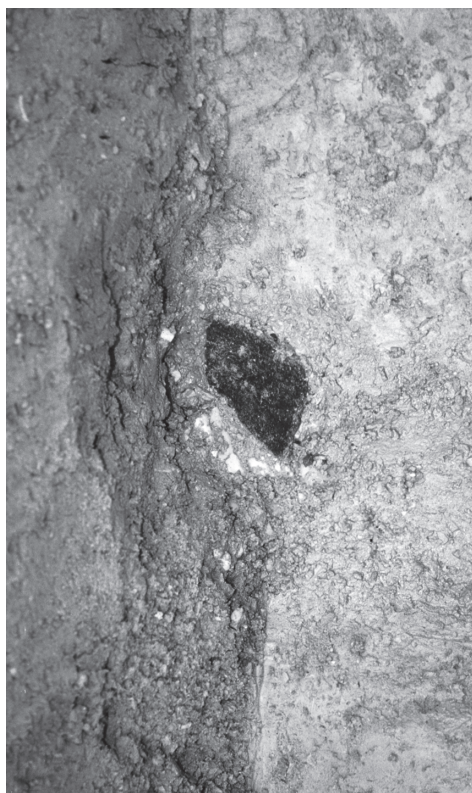
(1) 調査区西壁土層断面 (南東から)



(2) 2区観察トレンチ土層断面 (南東から)



(3) 3区西壁土層断面 (東から)



(4) 5区床面縄文土器出土土状況 (東から)

